

令和4年度地域イノベーション創出に向けた実践的教育研究推進プログラム(地域実践型学生教育授業)採択一覧

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
1	地域学部	村田 周祐	基礎ゼミ(1回生) (地域と学生の協働による鳥取の海・山・野の再資源化プロジェクト)	鳥取県東部を舞台に、地域と鳥取大生の協働によって、アンダーユースとなった海・山・野の再資源化を目指す。具体的には、鳥取県東部の「耕作放棄農地」「間伐遅れの林地」「放棄漁場」を再び糧とする営みに、地域学部地域創造コース「基礎ゼミ(1回生)」、および2~4回生の希望者らが、身体を伴って参画する。さらに、現場と共に悩んで問題解決の道を模索するためのワークショップを実施する。 本授業の特徴は、第一産業の多様なアクター(農業・林業・水産業のすべて)との協働、学部を超えた授業形態にある。アンダーユースという地域課題の最前線で模索する人々との身体ベースの協働によって、超学際な「学びの場」を創出していく。
2	地域学部	木野 彩子	国際地域文化調査実習(創造性) I、II、パフォーマンス実践(音楽) (リサーチ、ワークショップを経てのわらべ館における音楽劇公演)	今後の芸術文化の普及、広まりを考えるとワークショップやファシリテーションについての実習は不可欠です。地域施設と協働しながら、鳥取の子どもたちに必要な表現活動とは何かを考えていく授業を目指します。具体的には空間設定、照明・音楽などの基本を学びながら、最終的に子どもも参加する体験型の公演を作る実践的な内容になります。前期では子どもたちの様子やできることを観察しながら、ともに遊ぶことや視点の置き換えを中心に学びます。また、実際の舞台公演の例をみながら(コロナの状況により、映像などに変更するかもしれません)、どのような内容ができるか計画を立てていきます。後期には継続的なワークショップへとつなぎ、具体的に音楽やダンス、衣装やお話しを作ることを試みます。 昨年はワークショップ体験やストーリーテリングによる発表を経て、ロシア民話をもとにした音楽劇「おだんごぱん」を制作しました。コロナの感染拡大を受け無観客で上演、映像配信事業にしました。
3	医学部	金城 文	社会医学チュートリアル (子どもの成長と子どもを取り巻く社会環境)	鳥取県大山町大山小学校区大山保育所を訪問し、幼児との交流を通して、幼児期についての理解を深める。実習期間を通して複数回訪問することで、幼児の発達の変化を知る。大山小学校区で、幼児の生活や成長に関わる人々(保護者、先生、園医、保健師、地域の人々)へのアンケートやインタビューを計画し、アンケートやインタビューを実施することを通して、子どもを取り巻く社会環境を把握し、子どもの健やかな成長のために社会に求められる仕組みについて考察する。 また、住民との交流を通して、中山間地域での暮らしについても理解を深め、医学生が中山間地域の魅力を発見する機会になることも期待している。
4	医学部	桑原 祐樹	社会医学チュートリアル (小児期からの生活習慣病対策～睡眠、メディアを中心に～)	松江市(主に東出雲町)で実施されている小児期からの生活習慣病対策、学校保健活動に参加し、1. 児童生徒の健康状態、生活実態を総合的に把握する力。2. 小児の生活習慣に関連した健康問題を学習・抽出し、その要因や解決方法を考察する力。3. 抽出した問題点について、保健教育等を通して健康に関する意識づけを促すように対象者に働きかける力、を習得する。 グループ内での学習会、現地踏査、学校関係各者へのインタビュー調査、既存の資料や学校でのアンケートの収集と分析、オンラインを活用した健康教育の実施(テーマ例:生活習慣の乱れと睡眠やメディアの関わり)について実習期間を通じて行い、最後に実習のまとめと発表を行う。

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
5	医学部	天野 宏紀	社会医学チュートリアル実習 (地域在住高齢者の認知症対策～ 琴浦町での取り組み～)	<p>琴浦町で実施されている地域高齢者を対象とした認知症の予防・介護に関する活動に参加し、実践的な体験を通して地域での認知症対策について理解を深める。</p> <p>学内での認知症に関する事前学習の後、現地実習では町スタッフによる健康福祉行政の概要説明、町内の医療福祉施設見学、町が実施する「もの忘れ相談」での認知症専門医の診察見学、介護予防サークル・介護予防教室(認知症予防)への参加およびアンケートの実施、認知症予防教室の企画・運営を行い、アンケート集計分析結果等実習で得られた成果をサークル・教室参加者等へ発表・還元する。</p> <p>実習の最後に現地実習での実習成果をとりまとめて学内の発表会で他の実習班の学生と成果を共有する。</p>
6	医学部	尾崎 米厚	社会医学チュートリアル (医学科4年) (米子市における生活習慣病管理およびフレイル予防に関する地域健康教室)	<p>学外の地域の現場で学ぶ社会医学チュートリアル実習の一環で、米子市における生活習慣病の管理向上とフレイル予防を目指して、生活習慣改善とフレイル予防についての地域健康教室を実施する。学内で事前学習し、血圧と骨密度測定の演習をし、学生手作りの教育媒体による健康教室の準備をする。</p> <p>米子市の住民からの希望のあった集会所に米子市スタッフと学生が出向き、健康教室、フレイル予防の健康教室とフレイル予防体操の実践、血圧・骨密度測定、健康相談を実施する。健康教室時とったアンケートを集計分析し、米子市スタッフへ還元する。</p> <p>実習の最後には、学内の発表会を行い、実習成果を学生同士で共有する。</p>
7	医学部	尾崎 米厚	研究室配属(医学科3年) (島根県の中山間地における地域医療実習)	<p>限界集落を有する中山間地域で実現可能な地域包括ケアの在り方を明らかにする問題解決学習である。地域医療、へき地医療、浜田市弥栄町の実態に関する文献検索、事前学習を通して、山陰の中山間地域における地域医療に関する調査研究課題を学生各自が持てるように準備する。</p> <p>現地フィールド調査ツアーでは、中山間地に宿泊し、地域医療の現場を視察、体験する中で、地域医療スタッフ、保健医療福祉関係者、患者・地域住民への観察調査、インタビュー調査等を行い、調査研究テーマに関する知見を収集し、集計分析する。結果の解釈については、グループディスカッション、関係者、教員との協議を通して考察を深める。</p> <p>調査結果は現地関係者へ還元する。島根県地域枠に限らず地域医療に関心のある幅広い学生を募集する。</p>
8	医学部	野口 佳美	統合実習 (地域活動「子ども食堂」参加型実習を通して地域の連携・協働について考える)	<p>統合実習の目的は、「これまでに獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用して、実践の場における現象を論理的に分析、理解するとともに、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につける。」ことである。</p> <p>今年度の合実習では、地域活動である「子ども食堂」の活動に参画し、地域の人と協働した支援活動を通して、地域創生、地域活性化の取り組みについて理論的かつ実践的に学ぶことを目的にしている。</p> <p>実施期間:7～9月 実施内容:「子ども食堂」での食事準備:3回、「学習支援」での学習指導:3回 「自然を体感する会」での子どもの見守り:1回 「レクリエーション(健康教育)」での遊び相手、保健指導:計2回</p>

No.	部局名	代表者氏名	授業名	授業概要
9	農学部	菅森 義晃	生命環境農学演習Ⅰ・Ⅱ(農学部) 地域調査プロジェクト(地域学部) (地球科学で地域課題を解決し、持続可能な発展を考える)	ジオパークではその地球科学的な資源と地理的な制約を活かした活動が展開されている。特に、地球科学的な事象の見せ方は教育や観光資源として成立している。そこで、本授業では、地形学・地質学分野に所属された学生および教育学分野の学生を主対象とし、隠岐ジオパークと三島村・鬼界カルデラジオパーク、そして地元である山陰海岸ジオパークで地球科学的事象の理解と活用方法の取得を目的に課題解決型学習を用いて実施する。教員が学生の専門性を高め、その専門性を活かした商業利用・教育活用についてジオパーク推進協議会や地元のガイド等と協力し、実践力を養う。学生は実習の成果を「みんなでおしゃべり5」にて発表し、学術・行政・民間で議論を行う中で、ジオパークや地球科学的資源を用いた地域の持続可能な発展の具体的方法を模索する。
10	農学部	松村 一善	食マネジメントⅠ・Ⅱ、食マネジメント演習 ほか関連科目群 (地域連携による6次産業化支援人材育成プログラム)	本プログラムは講義と演習で構成されており、育成プログラムを構成する全科目の単位(16単位)を修得することをプログラムの修了要件としている。 講義・演習は食プロレベル1からレベル3の資格認定で求められる内容を網羅しており、プログラムを修了した者は、食の6次産業化プロデューサー レベル3へのレベル認定申請が可能となる。
11	農学部	日置 佳之	地域連携による里地里山基礎教育実習プログラム (現場体験を通して地域課題を考える)	本授業では、鳥取県における課題である経済の発展や中山間地域の活性化を担える人材育成を目指し、「地域自然を生かした観光」や「林業」による経済振興や、「自然の力を利用した中山間地域における農業の省力化」を実践できる人材育成を目的とする。 具体的には、山陰海岸ジオパークや国指定名勝において、地形・地層・動植物の観察を通して、その価値や利活用法を身につける。また、人工林の材積測定から間伐法の選定、そして、立木の伐倒を体験し、林業の実践力を身につける。加えて、中山間地域の農場において、農業労働力の不足を補うと期待される畦畔草刈りの省力化技術を身につける。
12	農学部	田村 純一	農芸化学実験Ⅲ,Ⅳ (地域天然資源の有効活用)	フコースは生命現象を左右する生命体には不可欠な糖で、血液型物質や機能性糖タンパクの構成糖である。 医薬品の開発やバイオテクノロジー分野の研究で多用されているにもかかわらず、たいへん高価である(富士フィルム和光7200円~/1g)。海藻に含まれるフコイダンはフコースの直鎖多糖で、その多くの水酸基が硫酸化されており、種々の特異的生理活性を発現する。 本申請科目は農学部農芸化学コースで開講され、申請者らは有機化学分野を指導する。フコイダンはフコースの資源になることに着目し、モズクをはじめ種々の海藻に含まれるフコイダンを加水分解してフコースを単離精製し、地域資源となる海藻の探索を自らの手で発掘する体験を実践させる。その結果を地域に公表して還元し、プレゼン能力を涵養する。
13	農学部	兵頭 正浩	国際乾燥地農学演習 (農業生産現場から地域環境の特性を学ぶ)	棚田には、国土保全や水源涵養機能、生態系の保全機能、景観形成機能など多面的な機能がある。鳥取市国府町上地には、標高約600m付近に棚田が広がっているが、農家戸数の減少や高齢化に伴って、棚田の維持管理が困難な状況となっている。一方、鳥取県の特産品としてらっきょうが挙げられる。鳥取市福部町は、栽培面積が100haを超える全国屈指の大産地であるが、農家の高齢化に伴って、生産性の低下が懸念されている。 そこで、本授業では鳥取県のそれぞれの対象地域特性を踏まえた営農環境を実践によって学び、用水路や圃場等の生産基盤を適切かつ持続的に維持するための解決策について考える。